

草の根活動の実情と問題点～アジア・アフリカからの現状報告

ザンビアとミャンマーの草の根活動を展開する活動家からの現状報告に耳を傾ける

ジュディス・F・ダカ ジョン・ニョンド夫妻

夫婦でザンビアの草の根活動組織エキュメニカルデベロップメントファウンデーションを運営している。

妻のダカ氏はプログラムディレクター、夫のニョンド氏はトラスティーボードの議長を務める。

二人が活動している地域は、家庭の子どもの数が最低でも5人という子たくさんで低所得の地域で、多くの家庭の一日の平均収入は200円に満たない。成人でも識字率は10%と非常に低い。このため、ニョンド氏を中心に幼稚園を開設、未来のリーダーを育てるべく、幼児教育に取り組んでいる。このほか、臨終の近い人々のためのパストラルケアやカウンセリングもニョンド氏が中心に行う職務である。

一方、ダカ氏は、現在、12人のスタッフと18人のボランティアと共に、年間100人の草の根市民に有機農業その他の技術訓練をすることを目的に活動している。訓練を受けた人がほかの人に伝えるという形で活動が広がるので、訓練は投資だと言う。同団体では、養鶏、養豚、食物生産及び管理(含む梱包、ラベリング、値付け)村内銀行、環境保全、孤児や弱者支援、収入向上支援、販売支援等、様々な支援を行っている。現在は、参加者やスタッフの移動手段の欠如や安定的な支援者(寄付者)の獲得のために奮闘中。教育に必要な教室や教材に事欠くことも多い中でも、地道な活動を通し、着実に成果を上げてきている。



ドナルド・ポール

プラクティカル・フィールド学習農場設立者

ポール氏は、農村地域の出身で少数民族と共に成長した。

1997年に有機農業を学ぶべく日本のアジア学院に派遣され、1998年に帰国後はキリスト教社会サービスという団体に属し、同時にミャンマーの少数民族アッカのために尽力する。2003年には母校アジア学院のトレーニングアシスタントとして再来日、有機農業の指導者として研鑽をつむ。

その後、プラクティカル・フィールド学習農場を設立、少数民族支援を行っている。農民や児童、女性、高齢者などを対象に様々なプログラムを啓発教育を実施。また、種や子豚、ひよこなどの提供なども行っており、同時に、農業センターの設立に尽力している。

少数民族の多くは貧しく、教育の十分ではないため、農業技術や知識に欠ける。安定した定職に就くのも難しいのが現実ではあるが、わずかでも土地があれば、そこを耕し、生活できるだけの食物を確保することはできる。現在はその段階までは来ているが、子どもたちの教育や健康といったことにまでは手がまわっていないのが現状である

アジア学院は世界で最も虐げられた人々のために働く草の根の「農村指導者」を養成します。このユニークなリーダーシップ研修は毎年栃木県のキャンパスで行われ、主にアジアとアフリカからやって来た学生たちを対象にしています。公正かつ平和で健全な環境を持つ未来を実現するために世界中の農民の持続可能な開発を目的としております。私たちは自給自足を強調するために、共同体で有機農業を実践しています。

Asian Rural Institute
Rural Leaders Training Center



学校法人 アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校

Wesley Foundation

- 9月24日 午後5時半開場 6時開演。
- #205. Wesley Center
- 107-0062東京都港区南青山6-10-11
- tel: 03-6427-4696
- email: info-eng@wesleyfoundationjp.com